令和６年度　学校評価書

東温市立南吉井小学校

令和7年1月30日

1　学校教育目標　　よく学び、心豊かにたくましく生きる児童の育成

2　経営の基本方針　　「伸びる」を合い言葉に、確かな教育活動を実践し、確かな学力の定着を図るとともに、保護者との信頼の絆を強め安全安心な学校づくりを推進する。

評価領域	評価項目	評価の観点	評価（1～4） 教職員	児童	保護者	考察及び改善方策　○成果　●課題、取り組み	学校関係者評価委員の評価
生徒指導	いじめ･不登校等への対応	いじめや不登校の兆しを早期に把握するとともに、児童や保護者の思いに寄り添い、適切な相談や支援・指導に努めている。	3.72	3.53	3.15	○いじめについては、教職員で「どこにでも起こりうる」ことを共通理解し早期発見と積極的認知に努めた。いじめを認知した場合には、生徒指導主事を中心として組織的な対応に努め、早期解決を図った。現在、重大事案につながるような深刻ないじめは発生していない。今後もいじめを生まない風土の醸成に努める。 ●不登校傾向児童への対応も組織的に行ってきているが、根本的な解決には至っていない。関係機関を交えたケース会議を行い、東温市適応指導教室「ひだまり」に通うなど改善が見られる児童もいる。今後も関係機関や地域・家庭との連絡を密に取り、よりよい支援を行い解決を目指す。 ●基本的な生活習慣の定着を図るには家庭の協力が欠かせない。今後も毎月行っている「健康マスターチェック」での振り返りや、保健だよりでの結果のお知らせで家庭への啓発を図る。	・いじめに対する対応については保護者の不安感が高い。児童の評価は高いことから学校の取組は効果があると考えられるので、取組や成果を保護者に知らせると良いのではないか。 ・不登校の対応は期間を要するものもあることから、中学校や関係機関と連携し長期的展望で取り組むことが望ましい。 ・基本的生活習慣の定着が課題と捉えている保護者の割合が多いようである。健康チェック等の取組が形骸化しないように、効果的な活用を工夫し継続していただきたい。
	基本的生活習慣の定着	「早寝・早起き・朝ごはん」や歯磨きの習慣化や身の回りの整頓など、基本的生活習慣が身に付くよう指導に取り組んでいる。	3.69	3.38	2.98		
	いじめをしない・許さない人間づくり	いじめを身近な問題と捉え、自分の行動を振り返るとともに、相手の立場に立った言動のできる児童の育成に努めている。	3.72	3.27	3.48		
確かな学力を育てる教育	基礎･基本の定着	**「ｅスタ」「ＥＩＬＳ」の活用やまなびの時間、算数教室の充実を図り、基礎的・基本的な技能や知識の定着を図っている。**	3.38	3.70	3.12	○今年度も児童同士の対話による深い学びを目指した授業づくりを行った。意見を練り合い・高め合う授業実践を行い、学年部や学年団を中心に研修を進めた。その結果昨年度と比較して、「基礎・基本の定着」に関する児童のポイントが0.11ポイント上昇している。 ○１人１台端末を活用して、学校や家庭で自主的に学習ができる環境が整っている。また、各学級で家庭学習の良い取り組み例を紹介するなどした結果、家庭学習に対する意欲の向上や内容の深まりが見られた。 ●デジタルとアナログのベストミックスについて実践と研修をさらに深め、１人１台端末の効果的な活用方法をさらに研修する必要がある。	・児童が基礎・基本の定着に手ごたえを感じているのは日々の指導の成果であると思う。今後も基礎学力の定着に向けて歩みを進めていただきたい。 ・児童が帰宅したときに保護者が不在の家庭が増えている。家庭学習ができない理由を把握し、対応策を考える必要があるのではないか。 ・参観日で授業を参観すると、１人１台端末を効果的に活用されていると感じた。
	家庭学習の充実	学年の発達段階に応じた家庭学習が行えるよう、学習の内容や方法、時間などについて具体的に指導するなど、学習習慣の育成に努めている。	3.28	3.32	3.01		
	伝え合う力の育成	授業において対話活動の場を効果的に設定することにより、自分の考えを持ち、他者と豊かにかかわり合い、伝え合う力の育成に努めている。	3.59	3.28	3.18		
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	道徳の時間はもとより、全教育活動を通して、主体的に考え、自分自身や他者と対話しながら、よりよく生きることについて考える機会をつくるなど、道徳教育の充実に努めている。	3.49	3.58	3.34	○支持的な雰囲気のある学級、学校づくりを教職員一人一人が意識して行った。学級全体、学校全体で児童一人一人のよさを認めたり、一人一人の違いを受け入れたりすることで、優しい児童が育っている。 ○校内マラソン大会や業間マラソン、「えひめ子どもスポーツＩＴスタジアム」の８の字ジャンプへの取組を通して、最後まで粘り強くやり抜く態度や意識を高めることができた。縦割り遊び「あそぶデー」を楽しみにしている児童が多くいる。児童に仲間意識や所属感を味わわせることができた。 ●新体力テストの結果では、どの学年においても全国平均を下回る種目が多い。運動や体を動かすことが好きな児童を育成するために、遊びを通して体を動かす機会を多くしたり、体育の授業の中で運動の楽しさを味わわせる活動を取り入れたりするなど、集団で楽しく運動に取り組む場の設定を行う。	・豊かな心と健やかな体を育てる教育が推進されていると思う。しかし、自己有用感が低い児童や意欲が低い児童、悩みを抱えたり不安を感じたりしている児童もいると思うので、一人一人にしっかり目を向けて支援を続けていただきたい。 ・体力づくりは低学年からの積み重ねが必要と考えられる。体力づくりへの児童の意欲・関心を高めさせる取組があるとよいと思う。 ・子供から話を聞く中に、道徳の授業やあそぶデー、なわとびのことが多くあった。子供たちも楽しんで活動できていると感じる。
	仲間づくり 集団づくり	**互いに助け合い、よさを認め合うような支持的風土を培うことにより、認め合い、励まし合い、高め合う仲間づくりに努めている。**	3.63	3.73	3.35		
	健康づくり 体力つくり	体育の時間を充実させたり外遊びを奨励したりすることで体力の保持増進に努めている。	3.55	3.34	3.28		
	粘り強くやり通す態度の育成	活動のねらいを明確にし、自分のめあてをもたせ、最後まで粘り強くやり通す態度の育成に努めている。	3.73	3.68	3.15		
	食育の推進	栄養教諭と連携して、日々の給食指導を充実させ、「食」についての学習に取り組み、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせるように努めている。	3.45	3.64	3.20		
特別支援教育	特別支援教育の充実	教育相談を実施し、特別支援教育の視点に立った多面的な児童理解に努めている。	3.72	3.71	3.21	○児童の教育的ニーズを把握し、個に応じた指導を行い効果を上げている。 ●保護者の児童一人一人への対応や通級指導教室へのニーズが多様化しており、通級を希望する児童が増加している。	・多様化するニーズに対応するためには、人員や教室の増設など行政への働き掛けを続けていく必要があると感じる。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	家庭や地域と連携して安全に登下校をさせることなど、安全指導の充実を図っている。	3.53	3.75	3.47	○登下校については、保護者・地域の方の協力を得て、安全に実施できている。下校時は、道路に広がることもあり、今後指導に努めていく。 ○児童に自転車ヘルメットの着用の意識が高まっており、保護者の協力の下、ほとんどの児童がヘルメットを着用している。 ○避難訓練等を通して、児童の安全への意識を高めることができた。防災や安全に対する児童の意識は高い。 ●今後起こりうるとされる「南海トラフ大地震」等の大きな災害に備えて、学校と保護者、地域との連携について考えていく必要がある。 ●スマートインターの開設に伴って交通量が増加し、横断歩道や押しボタン式信号機で停車しない自動車がある。児童の交通安全については、児童への更なる指導と啓発のほか、家庭・地域との情報交換を密にしていく必要がある。	・数年後に大型商業施設の開店が見込まれており、今後、学校周辺の交通量が増加することが考えられる。登下校の安全確保のために、引き続き児童への安全指導の充実や保護者への啓発を進めていただきたい。 ・交通事故防止の意識が三者とも高い。命を守る行動ができる子供の育成にこれからも努めていただきたい。 ・毎朝見守りをしているが、安全に登校できている。上級生が優しく下級生に接することができている。 ・災害に備えての連携については、避難所運営の組織や活動などが教職員の勤務時間等を考慮した計画になるのが望ましい。
	防災教育の充実	教職員研修や避難訓練、学級活動での指導等による防災教育を進め、災害時に自ら判断し行動できる児童の育成を図っている。	3.50	3.82	3.36		
	安全意識の高揚と自己管理能力の育成	児童や保護者に折に触れてヘルメットの着用をはじめとする交通安全について啓発し、交通事故の防止に努めている。	3.59	3.93	3.86		
	施設・設備の安全管理	安全点検等による潜在危険箇所の早期発見と除去に努めている。	3.53	3.71	3.23		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙの推進	学習のねらいに即して、地域の人材や専門家、協力機関等を積極的に活用し、地域とともに児童を育む学校づくりに努めている。	3.24		3.18	○運動会や校内マラソン大会、参観日などの行事を実施するに当たり、保護者の理解と協力を得られた。 ○今年度は、６月に３年生の総合的な学習の時間で地域の方の協力を得て「盆踊り」の活動を行った。また、５年生の家庭科で、玉結びと玉止めの仕方の学習の際に協力を得た。	・コミュニティ・スクールの認知が進み、地域の方の協力も増えてきている。継続した活動にしていただきたい。 ・地域の方の力を積極的に学校に取り入れている。地域とともにある学校づくりを今後も着実に進めてほしい。
	情報の共有化	児童の様子について積極的に家庭と連絡を取り合ったり、学校の教育方針や教育活動等についてホームページや学校だより等を活用して情報の共有化に努めている。	3.67	3.53	3.14		
特色ある学校づくり	ふるさと学習の推進	学年の発達段階に応じて、地域の人・自然・文化を生かした「よしいの」ふるさと学習の推進に努めている。	3.21	3.45	3.09	○運営委員を中心にして、朝の挨拶運動を推進し、校内では気持ちのよい挨拶をする児童が増えている。 ○様々な委員会で全校を巻き込んだイベントを企画し、積極的に取り組む意欲や態度が高まっている。 ●登下校中などの地域の方への挨拶についても、「あいさつ日本一の学校」をめざし、気持ちのよい挨拶ができるように、今後も繰り返し指導・啓発していく。	・朝、校門で運営委員が率先して挨拶運動に取り組めている。 ・積極的に挨拶をする児童が多い。不審者情報の増加により地域の方への挨拶が難しい時代になってきたと感じる。 ・運動会を参観したが、チャレンジする心やみんなの心が一つになる様子が感じられてすばらしかった。
	挨拶運動	全教育活動を通して、気持ちのよい挨拶や会釈、返事の定着を図っている。	3.68	3.80	3.13		
	チャレンジする精神の育成	**運動会等の学校行事や委員会活動等、何事にも積極的に取り組もうとする児童の育成に努めている。**	3.80	3.74	3.33		
施設・設備の充実	ＩＣＴの有効活用	ＩＣＴを効果的に活用した指導方法の工夫・改善により、児童一人一人の特性に応じた学習指導の充実を図り、児童が主体的に学ぶ環境を整えるよう努めている。	3.62	3.73	3.25	○デジタル教科書や、黒板に投影できるプロジェクターの設置で、授業を効率よく進めることができる。タブレットの活用が進み、児童の学習意欲や理解力の向上を図ることができた。 ●タブレットの効果的な活用（使用する場面やソフト、ツール等）については、今後も研修を積み、教職員の指導技術を向上させる必要がある。また、学年の発達段階に応じたＩＣＴリテラシーについて共通理解を図り児童に身に付けさせることが必要である。	・ＩＣＴ機器を活用して効果的な授業を行えていることは、とてもよい実践であると思う。 ・ＩＣＴ機器、デジタル教材等、目まぐるしく変化していく中、変化に対応できる研修を行いながら児童の主体的、対話的で深い学びのある学習を進めていってほしい。
	学習・生活環境充実への取組	校内・教室内における作品の掲示や展示を工夫したり、学習用具の整理・整頓を図ったりすることにより、児童一人一人の思いや努力を大切にした潤いのある環境づくりに努めている。	3.83	3.67	3.09		